

# 沙美地区社協だより

発行 沙美地区社協 広報部

## 食事訪問

私たち愛育委員会は、社会福祉協議会から委託され、友愛訪問を実施しています。友愛訪問とは、六十五歳以上の独り暮らしの方・寝たきりの方の見守りをする事です。今年の対象者は、七十八名でした。

沙美地区では、友愛訪問の対象の方以外にも、六十五歳以上の寝たきりの方、七十歳以上の独り暮らしの方、八十歳以上の二人暮らしをされている方、九十歳以上の方でご家族と同居されている方々に、心ばかりのパンやお菓子を届けます。お届けたお菓子は、地区社協からも援助をお願いしています。

今年も一月十七日(木)に百十三名のお宅を訪問し、心ばかりの食事をお届けいたしました。

八十歳を過ぎて、とてもお元気で「わざわざ届けてもらわなくても、自分の食べることが自分でできるよ。」とおっしゃる方もいらっしゃいます。毎月、サロンで楽しく談笑され、生き生きと活動されている方もいらっしゃいます。食事訪問をして、そのような声が聴けるのも私たち愛育委員の喜びです。

もしも一人でお暮らしになる中で、不安に思われることや不便を感じたり困られたりすることがあれば、ご遠慮なく、お近くの愛育委員までご相談ください。高齢化が進みゆく中、地域の皆さんが互いに声を掛け合い助け合って、安心して暮らせる沙美地区でありたいものです。

愛育委員は、健康と福祉のボランティアとして、皆様のお役に立てればと思います、日々活

動しています。友愛訪問、食事訪問だけでなく、幼児健診や各種検診、ミニ健康展など、赤ちゃんからお年寄りまで、地区内のすべての方々が安心して健康で幸せに暮らせるように、これからも、皆さんのお近くでずっと目配り気配りをしてまいります。今後ともよろしくお願ひします。

## めぐみ会

今や集いの場・通いの場は数多く、内容こそ様々ですがいろいろな場所で活動が広がっています。住み慣れた地域で住民同士が繋がりをもち、支え合っていく為には、まず自分自身が心も体も健康であることが大切です。高齢化率は四十五%近くに達した沙美地区ですが、とても元気な独り暮らしの会「めぐみ会」があります。

昭和五十八年に発足したと言われるこの会は、今年で三十六年目を迎えます。現在、七十代、八十代の会員・賛助会員(民生委員含む)約三十人で交流しています。年齢に関係なく、お互いに支えたり、支えられたりしながら、どこかほっこりした和やかな雰囲気となった会となっています。何よりも豊富な人生経験を持った人からは、学ぶことが多く、まさに知恵袋の宝庫と感じています。

二ヶ月に一度の例会では、玉島支所の保健師さん、玉島南高齢者支援センターさんより、健康に関するお話やアドバイスを受け、頭と体を使つての脳トレをしたり、役だつ情報を沢山提供していただいています。

また、市の出前講座を依頼し、音楽療法で心を癒されたり、年初めには恒例の倉敷市社会福祉協議会玉島事務所さんより借

## 挨拶

沙美地区社会福祉協議会会長

原田貞男

平成三十年は「晴れの国岡山」も豪雨の大災害があり、沙美でも県道が通れなくなる等災害がありました。まだ直っていませんが。

この災害で、七月予定の福祉講演会が延び延びになりましたが、二月十六日(土)にようやく実現でき、多くの方々の出席により盛況のうちに終えることができました。またその他の催し事にも積極的に参加いただき、ありがとうございました。

来年度も本年度同様にご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 沙美地区社会福祉協議会理事会及び臨時総会

(コミュニティ協議会設立総会)

去る平成三十一年二月二十四日黒崎公民館において沙美地区社会福祉協議会の理事会、臨時総会が開催されました。今回の臨時総会はコミュニティ協議会を設立し、福祉協議会の中に組み入れる事を問う総会です。約五十名の参加者がありました。倉敷市市民活動推進課課長主幹の小野さん、主任の小河原さん、倉敷市社会福祉協議会玉島事務所主事の小野さんに出席していただきました。

コミュニティ協議会とは、一定の地域に居住し共通する感情を持つ人々の集団が地区の課題に取り組む協議会です。倉敷市の市民活動推進課が主体となつています。沙美の地域で住民が環境、健康、福祉、また、他の地域のコミュニティ協議会との交流等に活動した場合にその活動費の半分を補助していただけます。議題は次の通りです。

・議題一  
沙美地区社会福祉協議会(コミュニティ協議会)の設立について

用の輪投げに挑戦し、会員の持ち寄りプレゼントを交換した後は、歌を歌って大いに賑わい盛り上がり、帰り際に「ここに来ると元気がもらえる」とか「今日も楽しかった」の声にも居場所の大切さをひしひしと感じます。そして、年度末には、皆が楽しみにしている屋外研修を実施しています。解放感もあり、いつもと違った雰囲気です。晴れやかな一日を過ごし、心も体もリフレッシュして帰途に着きます。

各機関の方々からも「沙美の人はとても元気です」と、よく言われますがその「元気」を旗印に掲げ、明るく、楽しい会になるよう、これからも皆で頑張っていきたいと思っています。

さらに、縦にも横にも繋がりをもちつつ、より一層絆を深めて昭和から平成、そして新元号からも、充実した会が続いていく事を願っています。



・議題二  
沙美地区社会福祉協議会規約変更について

・議題三  
沙美地区社会福祉協議会、理事、役員について

・議題四

平成三十一年度予算及び事業計画の承認について以上の項目について審議していただきました。数点の質問、問い合わせ等がありましたが、全体的な賛同を得て可決成立しました。

コミュニティ協議会を取り入れることにより、従前よりイベントの予算が増え、より多くの参加者数が期待できると共に、更に新しいイベントを開くことも可能になります。来年度からの実施になりますが、地域の三世代の皆様方が今まで以上に参加してくれ、沙美地区がより住みやすくなり、健康で仲良く、楽しい地域になることが目的です。



## 福祉講演会

平成三十一年一月二十六日(日) 会場 倉敷市立沙美小学校

西日本豪雨災害により、七月実施を延期して、講師の先生のご都合もあり、年が改まってやっと実施することができました。

当日、玉島で同様の行事が同時に行われるということで心配した参加者数も、百二十名を超え、関係者は胸をなで下ろしました。地域の方々のご協力があったからこそと一同喜び合いました。

この講演会は沙美地区社協の主催でしたが、玉島南高齢者支援センター、倉敷市保健推進室、沙美学区小地域ケア会議との共催で、黒崎中学校・沙美小学校が後援してくださいました。そして沙美地区だけでなく黒崎中学校区へもご案内し、各地区の民生委員のご協力もあつて会を盛り上げることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

この講演の講師は倉敷平成病院認知症疾患センター長で神経内科部長の、涌谷陽介先生でした。先生のお話はたいへん分かりやすく、参加者はうなずきながら、聞き入っていました。

認知症を知り「認知症の予防」に取り組むお話は説得力があり、特に「脳動脈硬化をできるだけ進めない」「脳のアミロイドβタンパクがたまりすぎないようにする」ために、「運動」「栄養」「交流」の必要性を話されたのが印象的でした。

この後、小地域ケア会議のメンバーによる認知症の寸劇が披露されました。



最後にビンゴがありました。皆さん豪華景品をゲットしようと、数字が発表されるたびにカードの穴開けに熱中していました。集中力も認知症予防には効果があるなと思えました。

参加されて如何でしたか。今後も各種行事に奮ってご参加ください。

## 沙美 秋祭り

十月十四日(土)十五日(日)の秋祭りは好天に恵まれて、例年参加の小学生に加えて今年度は中学生も参加してくれ、千歳楽の良い巡行ができました。多くの保護者の皆さん、元子ども会役員や各町内の皆さん方の協力があったればこそその大成功でした。

以前に報告しましたように前年度の「お花」で「のぼり」「御神燈」を新調し、今までより少し賑やかな秋祭りとなりました。

巡行の「祭り唄」を大きく流しましたが、ご意見をお知らせください。

今年度も三十万円の「お花」を頂きましたので、来年度十月十九日(土)二十日(日)には「のぼり」「御神燈」を増やしていく予定です。好天を祈って、引き続き地域の皆様方のご協力をよろしくお願いします。



## 三世代交流歩け歩け大会・ふれあい交流会

平成三十年十一月二十三日(金・祝日)

穏やかな天気にも恵まれ、五十名が参加。寄島をお騒がせした楽しい一日でした。

九時に沙美小学校へ集合。学校前で路線バスに乗る。降りて南へ歩く。海上に輝く、浅口のモンサンミッシェル。「三ツ山」を見て、スポーツ公園へ。パンと飲み物でひと休み。「大浦神社」参拝。「嘉美心酒造株式会社」の酒蔵を見学。寄島停留所(十三時三十分発)からバスで戻る。

続いて、小学校で沙美地区ふれあい交流会を行う。九月三十日の予定が、台風接近のため中止。巻き寿司が配られ昼食、ビンゴゲームを皆で楽しんだ。

井笠バスカンパニーには、昨年同様専用の臨時バスを運行していただき大変感謝。

競馬神事で有名な大浦神社では、興味深い説明を面白く拝聴。

嘉美心酒造では、甘酒・利き酒を振る舞われ上機嫌。全員にお土産(酒粕)もいただき恐縮。

今年は路線バスで寄島に行きましよう」と題打って催しました。如何でしたか。今後も奮ってご参加ください。

